

全国総会東京大会を終えて

全国総会東京大会実行委員会 実行委員長 鴨治 慎吾

※この原稿は全国頸髄損傷者連絡会・機関誌「頸損」NO. 116 と同様の内容です。



(全国総会)

2011 年に行う予定だった全国頸損全国総会東京大会が東日本大震災の為中止となり、4 年。あらためて 2015 年全国総会の地となりました。

東京大会の準備が本格的に始まったのは約 1 年前。各役員忙しい中集まり、いろいろと検討し、また、奮闘しました。東京ということもあり、皆さんには観光等も楽しんでもらいたく、基本的なイベントを 1 日で行おうという話で進みました。ホテルとの交渉やイベントの設定等ではかなり難航。特に近年ホテルの料金が高騰し、なかなか例年の総会参加費用に近づけるのには苦労しました。予想を遥かに上回る参加者が集まったことあって、一部の部屋をインターネットで個々に予約、準備する実行委員とボランティアは泊まる部屋が確保し切れなかったために、別のホテルに宿泊するなんて苦労もあつたりしました。(合計部屋数 46)

今回の東京大会の会場及び宿泊は、ホテルサンルート有明というホテルで、ユニバーサルルーム(電動ベッド・車いすトイレ有)がシングル 8 部屋、ツイン 8 部屋もあり、あの有名な東京ビッグサイトの最寄駅でもある国際展示場駅からすぐの場所です。お台場にも近く、東京臨海副都心にあります。近年、こういった部屋が増えてきているものの、一つのホテルでここまで多い部屋数は東京でも数少ないです。



(災害対策ワークショップ)

国立リハビリテーションセンター研究所の協力により、災害対策ワークショップを行いました。研究所で作られた災害対策キットを使っての話し合いです。このキットの作成に頸損連絡会の会員も参加していました。災害弱者である障害者が、いざ災害が起きた時に何を考えどうすべきかを改めて考え行動するのを目的としたものです。大変多くの方が参加し、大盛況だったと思います。ここ最近では自然災害のニュースをよく耳にします。いつ何時、何が起こるかは誰も知りえないことです。余談ですが、当日夜、レセプション終了間際に最大震度 5 強の地震が関東であり、会場のホテルサンルート有明も大きく揺れ、その日帰宅予定の方が実際に帰宅困難者になってしまいました。



(支援機器展示)

また、同時に支援機器展示があり、いくつかの企業・団体がそれぞれ頸損に関わる機器や考えられた物を展示しました。障害当事者がプログラムした介護事業全般の総合ソフト会社（(有)ミツコミュニケーションズ）、車いすやクッション、バックレスト等を扱う事業者（株式会社ユーキ・トレーディング）、外出時に持ち運び可能なスロープ事業者（津田駒工業株式会社）、さまざまな障害者支援製品を提供している（テクノツール株式会社）、

世界初！排泄予知機器を開発している（トリプル・ダブリュー・ジャパン（株））、すべての人々がファッションを楽しめる環境の構築をめざし、障がい者衣料に関する研究も行っている（文化服装学院）、全自動で最良の空気圧切替運転を実行するクッション（横浜ゴム MB ジャパン株式会社）。業者や開発者研究者と直接相談ができ、福祉機器等を使わなければ生活ができない私達にとって意見を伝える、とても良い機会となりました。こういった機会がもっともっと増えればと思っています。



(全国総会)

全国総会も大変多くの方に参加して頂き、会計報告や予算案、本部や各支部の活動報告、今年1年また今後続く頸損連絡会の活動の方針等を検討、決定しました。



(レセプション)

レセプションでは参加者約120名、レセプション会場の許容範囲ギリギリでした。料理も美味しく、お酒も飲み放題です。また、マジシャンの方の演出もあり、皆さん大いに楽しみ、交流して頂けたと思います。



(マジックショー)

代表者会議から出た意見で頸損女子会という新たな催しもありました。このために遠方からの参加された方もいます。画期的な会になったことと聞いています。(私は、参加出来なかったので)

今回の東京大会では多くの会員さんに参加して頂き、大変嬉しく思います。また、ご協力頂きました方々に感謝致しております。

皆様、有難うございました!!
東京大会実行委員会一同